

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和5年度第1回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和5年4月24日(月) 午後1時～3時
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子（リモート） 閑念勝代、高田祐久子
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	—
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育創造部長 足立英則 学校教育課学校教育担当主幹 兼 教育研究室長 宮下晋一  幼保連携課長 伊藤宏明 幼児教育センター長 橋本恭代 幼保連携課（幼児教育センター）小林木綿子 幼保連携課（幼児教育センター）西村麻衣子 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 令和4年度就学前教育推進事業報告について (2) 令和5年度就学前教育推進事業計画について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会 事務局職員の異動を紹介 委員任期について依頼
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) ここからの進行は、委員長にお願いします。

委員長	3 令和4年度就学前教育推進事業報告について
事務局	<p>事務局説明</p> <p>資料1 令和4年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会 報告書（案）について</p> <p>～4年度訪問、報告書について 保育内容～</p>
委員長	<p>全体的にどのクラスにおいても、「環境を通して行う」という意識を持ち、発達に応じた環境構成が工夫されていた。乳児においては保育者との安心感、信頼感を土台とした遊びのコーナー作りへの意識や、園児のやりたい気持ちを引き出す保育者の努力が感じられた。幼児においても、園児の関心に合わせた遊びの環境が常設されており、またそこから継続性発展性を考えた保育がなされていた。さらに5歳児は「協同性」「豊かな感性と表現」の育ちを意識した創造性溢れるごっこ遊びが展開されていた。</p> <p>より一層、「豊かな感性と表現」「思考力の芽生え」にもう少し重点を置いた保育を期待したい。</p> <p>園長のしっかりとしたリーダーシップのもと保育者が助言を受けたことについては前向きに、やってみる、知恵を出し合う等、職員一丸となっていた。</p> <p>乳児の保育室では、環境構成を試行錯誤しながら、子どもの興味や発達に応じて考えておられた。園児が安心して遊ぶ姿が印象的であった。幼児においても、保育室の環境構成を工夫し、学年間やクラス間での遊びや活動経験について検討がなされていた。</p> <p>領域の表現に関わるところで、園内で「1年間の描画活動をふり返り、発達を理解する機会」があればと思う。表現する楽しさや心地よさを感じられるようにすることが大切である。園庭での遊びは年々工夫され充実してきている。その際、年度当初に決めたルールで進んでいるが、夏ぐらいを境にルールの見直しをしたら良い。</p> <p>園長の融和なリーダーシップのもとで、唯一の公立幼稚園としての使命をまっとうされていた。西脇市における実践的なモデルを担う大役を果たした。特に4歳児5歳児の後期訪問においては前山を使った保育活動が展開されており、それが幼稚園の特色でもあった</p>

<p>委員</p>	<p>と思う。そのあたりの実践的な知恵や蓄積されてきた保育のあり方を今後はわかりやすい形で他園や小学校と共有して、幼児教育のあるべき姿について広く浸透していくようにご尽力いただきたい。その資料としてセンターの業務とともに、幼稚園で培ってきた保育のあり方を整理していかれたらいいのではないかと。</p> <p>地域貢献が多大。稲刈りや吊るし柿等豊かな経験と言う点では非常に評価できる。乳児の部屋は大きいので、まとめきれないということもあるが、やりたい気持ち、落ち着ける空間というのを両立するような方向性で考えられている。3歳児は環境の整え方によって遊びが発展するのだということが分かり、工夫する姿があった。4歳児は広めの空間をコーナーごとに仕切って遊べる環境が整えられている。5歳児については、自分達でやりたいことを決めて取り組んだり、互いの発表を聞いて認め合ったりする活動が増えてきた。今後就学に向けて園児自らが整理整頓できるような環境を作っていくことが必要。</p> <p>園長先生がリーダーとして自分らしさを出されてきた。乳児は適切に対応されており、発達に応じた玩具の提供をされていた。2歳児は手先の器用さが、育ってきていると思う。3歳児はダンゴムシをきっかけに制作や表現をされていた。4歳児も図鑑を調べたりする環境が整えられてきた。5歳児は自立して生活できるようになってきている。自分の考えを発表したり話を伝えたりしている他、夏野菜の生長、飼育なども増えてきている。これから自分達で考えて活動することがさらに増えていくと、もっと良くなるのではないかと期待している。</p> <p>全体の保育の質の改善に一体となって取り組んでいる。新メンバーでまとまって保育を進めるところを意識されていた。0, 1歳児の環境は、動線を考えてみるように助言をしてから改善がなされ子どもの活動の流れがスムーズになった。2歳児も環境構成がしっかりしている。3歳児はままごとコーナーが充実していた。4歳児は、前期訪問の助言を受け、自由に制作する姿もあり、環境をかなり整えて努力されていた。5歳児は、自分たちで企画し、想像力を働かせながら活動するというのが活発になってきたと思う。今後、互いの良さを見つけたり気持ちを伝え合ったりというところ</p>
-----------	---

<p>委員</p>	<p>ころまで保育の内容が進展していくとさらに改善、充実ができるのではないかと思う。</p> <p>先生方が同じ方向を向いて取り組み、団結力が非常に強いというのがこの園の強み。0、1歳児は日当たりが良い保育室を生かした環境や、手づくりおもちゃ等、前期訪問での助言を受けての改善・検討がなされていた。2歳児は、非常に視覚優位の子どもたちが多いのではという助言後には、支援の工夫がなされていた。</p> <p>さらに、先生方が非常に穏やかに関わっておられた。幼児は体験活動を中心に保育活動が進められている。4歳児は環境の工夫が見られ、机上の座席表がマグネットで取り外しができるようになっており、活動に応じて、変えることができるようになっていた。5歳児は、掲示物も配慮がなされており恵まれた環境ではないかと思う。</p> <p>先生方は非常にフットワークが軽く、即行動に移す先生が多い。乳児クラスは、前期の訪問では少しデッドスペースがあったが、後期にはその部分がなくなり、非常に面白い仕掛けがたくさんなされていた。4、5歳児クラスは、先生方の得意なことを生かしながら保育室を作り上げていかれたらいいと思った。また、園だけ、家庭だけで育てるのではなく、子どもに関わる大人すべてが、子どもたちの育ちを願って一つの方向に向かっていくようなクラスが増えていくといいと思った。</p> <p>子ども達や教育に対する前向きな姿勢が、先生方の特徴である。後期訪問では、遊ぶスペースを可動式にしたり、長椅子を使ったミニカーの坂道道路を作ったり面白い仕掛けのおもちゃがあった。そのことで、場所の取りあいにならず遊びの流れがぶつからないようになっていた。2歳児は、子どもたちが遊び切るまで、先生方は我慢することと視覚的配慮が必要であると伝えた。後期訪問には改善や工夫が見られた。5歳児は、科学につながる遊びをしていた。前期訪問は泡遊び、後期はお店屋さんごっこをしていた。全員が楽しいと思いながら遊んでいたのが特徴的であった。先生同士が高め合っていく集団であって欲しいと思う。</p>
-----------	--

<p>委員</p>	<p>～4年度訪問、報告書について 特別支援内容 ～</p> <p>4年度で4年目になり、相談を多く受け入れたいという思いもあり、子どもの実態把握をしてから参観し、助言するという形にやり方を変えていただいた。園によってはそういう時間を取るのが難しいというところもあった。取組として、実態把握と連携に重点を置いた。連携も園内、園外という視点で、本校が持っている情報や、手立てを提供していき、最終的には、連携のツールであるサポートファイルをうまく利用、活用するための書き方や、目的を伝えた。また4年度は重度の障害があり集団に入れないう児に対して知識や経験のある支援者やスタッフが配置されている園も出てきたので、集団で落ち着いて活動できる部分が増えてきている。すごく頑張られている印象である。</p>
<p>委員</p>	<p>～4年度訪問、報告書について 園小接続内容 ～</p> <p>委員への質問で『環境』と『言葉がけ』が多いと感じた。小学校では、環境というと掲示物や、授業の準備ということが多い。保育室すべてを変えていくということは小学校では考えられないが、パーテーションや手づくりの環境作りを初めて保育の現場で見て感動した。小学校では、授業の中での仕掛けというものは工夫しているが、保育の場は行動や遊びに導く仕掛けが見られ、大変学べる場だった。環境を作ることによってそうせざるを得ないという状況が作り上げられていて、子ども達に、たくさん言葉をかけなくても、自然に動くことができていた。また昨年度の終わりにドキュメンテーションを小学校にもいただきたいと依頼し、何園かはいただき、それを一年生の担任に渡した。今年度、先生達はそれを見ることによって、子ども達がどんな経験をしてきたか、何を学んできたかを知り、そこに刺激を与えることで、子どもの意欲を引き出していく、という良いつなぎができたらと思っている。園小の関係で、まずは互いを知ることが大切。園の先生が小学校へ来てくれる、私達が夏に園に行かせていただくことによって、よりお互いを知る場が増え、そのことが円滑な接続に繋がっていけばと思う。</p>

	<p style="text-align: center;">～ その他 意見交換 報告書記入にあたって ～</p> <p>委員長 各園の質が向上してきた。この委員会の果たしてきた役割を踏まえて、良い歯車が回り始め、徐々に回転数が上がってきていると思う。もちろん回転数が上がってきても、急激なスピードアップではなく、各園に応じたスピード感で進んでいる、という状況である。保育の営みはそもそも環境を通して行うということが基本で、それは小学校でいうと教材のような役割があると思う。幼児期には教科書がない分、ままごとの環境、制作できるような環境、展示物、生き物を飼育する環境があるというようなことが教材としての意味があると思う。</p> <p>また、ドキュメンテーションは本来記録としての役割も持たなければならないので、園の保育の記録を残し、小学校の先生方や保護者にも共有し、10の姿としての遊びの意味づけをすることが大切。その時の子どもの思いや考えを、きちんと読み取れるという事が重要。</p> <p>委員 小学校へのつながりや、支援の考え方が浸透してきたというのが嬉しい。あとはこれをどう続けるか。人が定着する園になってくれたらもっと良い。</p> <p>委員 初年度は園長先生はじめ全先生方がすごくがちがちに思われていた。2年目3年目になるにつれ、先生方も私達に慣れ、普段の保育が見られたので良かった。全体としては、どの園も良くなってきたと思う。先生方がいろいろな話をしてくださる中で課題として見えてきたのが、緊張度の高い先生は伸びが少し小さい、ということ。そこの強化を次に考えていくことも大切。</p> <p>委員 特別支援の観点から発達特性の学習を進めると、「こうであらねば」という考えになってしまう。特性も大事だが、得意・不得意があって、強みをいかして弱みは少しずつ支援をといるところの視点が今年必要かなと感じている。</p> <p>委員 今頃が新1年生の、引継ぎの問題や課題が見えてくる頃。動き出してみないと分からない課題もたくさんある。普段から関わってい</p>
--	--

<p>委員長</p>	<p>くことで、園小をうまくつなぐ方法が見えてくるのではないかと思う。</p> <p>カリキュラムにおいては、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムが検討・作成されつつあり、子ども達全体の学びを接続していけるようなものになってきている。しかし生活の部分や気持ちの部分での課題があり、調整しながら子ども達が過ごしやすい環境を作っていくことが大きな課題になる。</p> <p>個々の子どもの育ちをどう繋いでいくのかということは今後の課題になっていく、という意識を持つ必要がある。</p>
<p>委員長</p>	<p>報告書案ということで、所感を述べていただいた。これでよろしいか。</p>
<p>全委員</p>	<p>了承する。</p>
<p>委員長</p>	<p>では、報告書として発出願う。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 令和5年度就学前教育推進事業の計画について</p> <p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2 「5年度年間スケジュール表」</li> <li>・資料3 「視察訪問各園希望まとめ」</li> <li>・資料4 「年間スケジュール」</li> <li>・資料5 「視察訪問資料」</li> <li>・資料6 「視察訪問案（保育内容・特別支援）」</li> </ul> <p>変更点を説明</p> <p>変更点として昨年度、保育内容の質問様式の「☆本年度頑張りたいこと。」の記入を任意にしておりましたが、委員の皆様から記入してあった方が視察の視点になって良かったとご意見がありましたので本年度は任意という言葉を外して配布しようと思う。園長先生にも明記していただいて1回目のみ提出していただこうと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>資料2、今年度の日程調整も進んでおりこのままで問題ない。</p>

	<p>資料3、各園に配布し調整されているので良い。</p> <p>資料4、各委員が把握しておく必要がある。</p> <p>資料5、昨年度と同様ということだが、どの程度記入するかは再度確認が必要。</p> <p>資料6、「任意」という言葉が省かれていることを含め意見交換をお願いしたい。</p> <p>資料5について、昨年前期は、特に★をつけて頑張りたいところを記入してもらった。視察訪問初年度の段階では全項目を記入していただきたいと考えていたが、負担感や書き慣れないということもあり3項目程度というところからスタートした。昨年度の実績を見ると、多くが、前期の実施状況のところは、○や☆を書いておられるので、本年度も同様でいいのではないかと。特に★があると力を入れて助言しやすい。★だけではなくて、☆も今年度自分達が頑張っていこうというところなので、ある方が焦点化しやすい。★☆がない方がよいのではなく、ある方が自園の課題や自分のクラスの課題が見えてきていると思うので、できるだけ付けて欲しい。いかがですか。</p>
全委員	異議なし。
委員長	<p>資料6は、「任意」という言葉を省くということですがいかがですか。</p> <p>書くにあたって、担任の先生に伝えていただきたいことがある。書くにあたって悩んだ際、『今年度、自分自身がどう成長していきたいか、どこに力を入れて保育を進めていきたいか』、を書けば良い。」と伝えていただければと思う。本来クラス運営として、学級経営的な視点から書く方が望ましいのかもしれないが若い先生方が多いこともあり、自分自身がどう頑張りたいのかという視点で書いた方がよいのではないかと。</p>
委員	<p>本来はクラス運営を見ていかないといけないと思うが、柔軟にしていくと良いと思う。</p> <p>また0, 1歳児のように縦割りクラスになっている場合は、分けて記入しなくてもいいのではと思う。</p>
委員長	0, 1歳児を一枠にするという柔軟性はあって良いと思う。



	特別支援についてこの書式はいかがですか。
委員	書式に関してはこのままで良い。市の巡回訪問の資料とこの資料を両方作るのが大変という意見もありましたので、こちらとしては同じ資料でも構わない。
事務局	調整する。
委員長	5 その他について
事務局	事務局説明 ・資料7「令和4年度認定こども園保護者アンケート集計」 ・資料8「令和3年度HP公表西脇市認定こども園保護者アンケート集計結果」
委員長	資料7について 各園のアンケートを確認
委員長	今各園のアンケートを1園ずつ確認したが、総合したうえで令和4年度に資料8をどう作るか。問1～4は数字を差替えるので良い。アンケートの結果からというところも、特徴的なところを抜き出したら良いと思う。自由記述は昨年度テキストマイニングで分析していただいたので、今年度も同様で良いと思う。最後の質の向上推進委員からの意見については、委員からの意見を参考に作成するので、全体的なこと感想、所感をいただきたい。
委員	保育のことを分かってくださる保護者が増えてきたと思う。「保育とは環境を通して行うものである」ということが、先生方に浸透し、そのことを園や先生方からの発信により随分保護者にも分かってもらえるようになったのではないかと。保護者と連携を密にしながら、子どもの様子を実際に見られるようにしていくというのが今後の課題であると思う。
委員	全体の保育の質が上がってきた。保護者との連携はどうしても課題に挙がってくる。そこで慌てて、行事の見栄えを良くすると

	<p>いうことではなく、保育の中身が充実するようにして欲しい。今、小学校でも大事にしているところは非認知能力を伸ばそうということ。形ではなく、中身を重視していけたら良い。</p>
委 員	<p>特別支援の観点から何か発信できるものがあれば良いと思う。</p>
委 員	<p>保護者に対して、どのように情報発信していくか、説明責任をどう果たしていくか、ということが大事である。保護者に伝わりにくい際は、顔を見て話をしていく必要があるのかなと思う。</p>
委員長	<p>以上で議題が終了した。みなさんの円滑な審議、御意見に感謝する。進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>5 次回開催予定</p> <p>次回の会議は、8月29日（火）午前10時から予定している。内容については、前期の視察訪問を踏まえて各園の取組状況等について協議をいただきたいと思っている。</p>
部 長	<p>閉会の前に教育創造部長、足立よりご挨拶申し上げます。</p> <p>あいさつ</p>
事務局	<p>6 閉会</p> <p>以上をもって、本日の会議を終了する。</p>